



2024.07.03

オンライン講座

精神医学（各論）_7_パーソナリティ症群／摂食症群_2

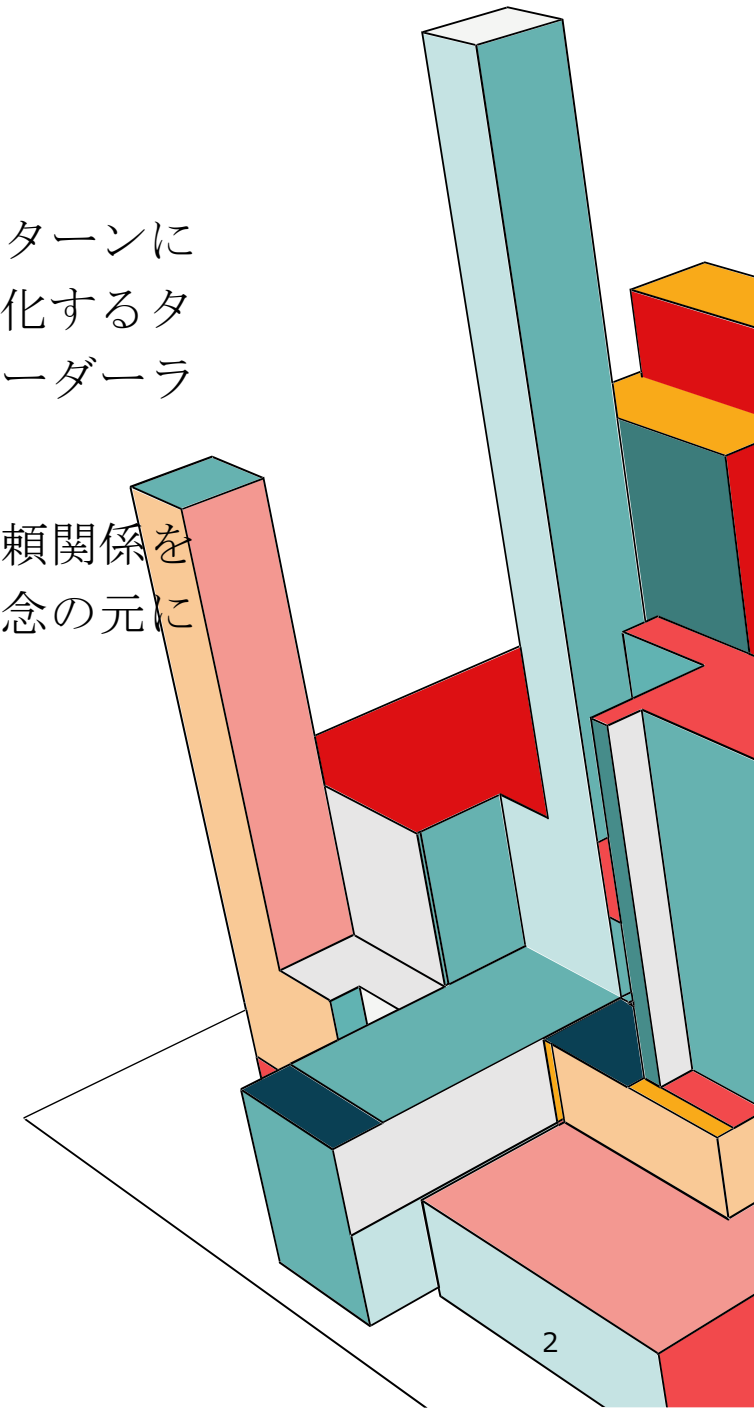


もりさわメンタルクリニック

<ボーダーラインパーソナリティ症>

境界性（ボーダーライン）：1938年にアメリカの精神分析家アドルフ・スターンによって、神経症の治療として行われる精神分析を行うことにより状態の悪化するタイプの人々に対して初めて用いられた言葉。神経症と精神病の境界線（ボーダーライン）という意味。

境界例：リストカットや自殺企図を繰り返し、周囲の人々を振り回し、信頼関係を維持するのが難しいケースに用いられた診断名。境界性パーソナリティ概念の元になった。

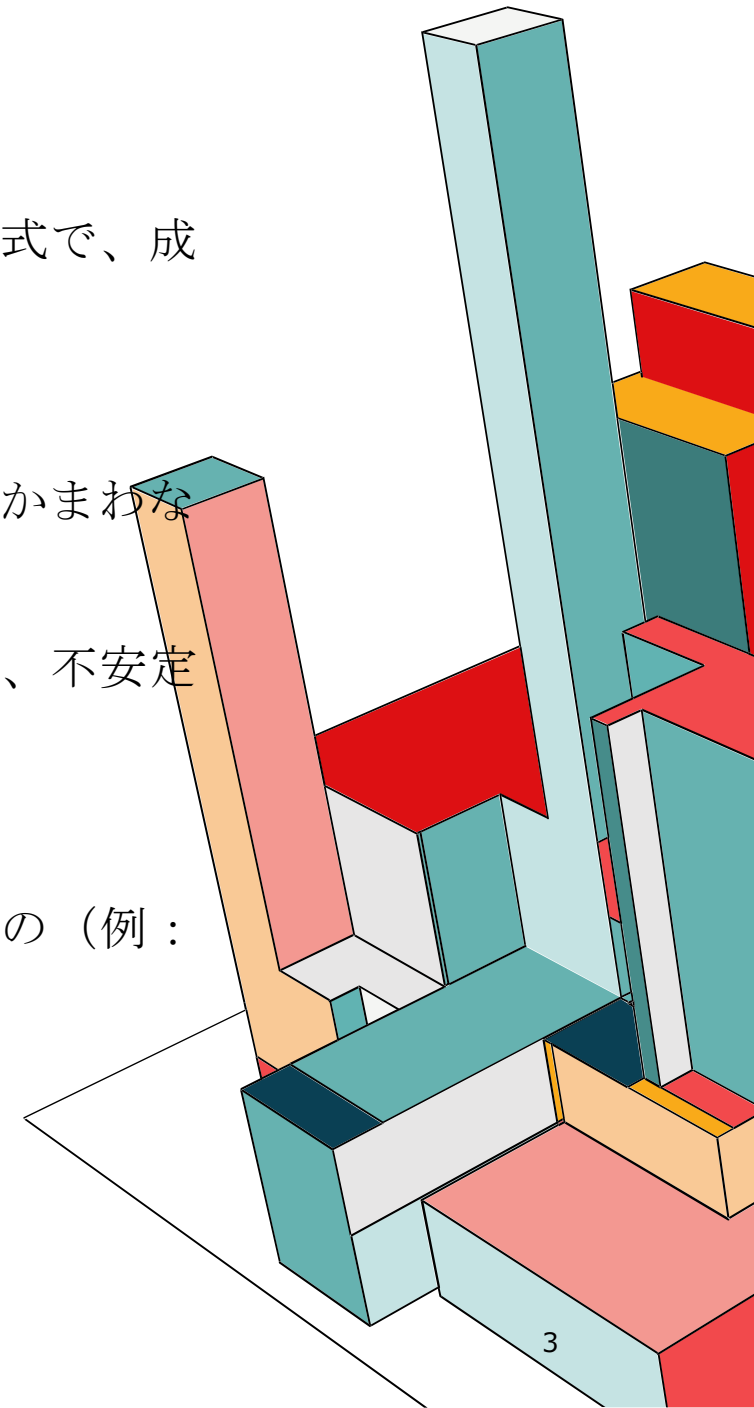


診断基準 (DSM-5-TR)

対人関係、自己像、感情などの不安定性および著しい衝動性の広汎な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。

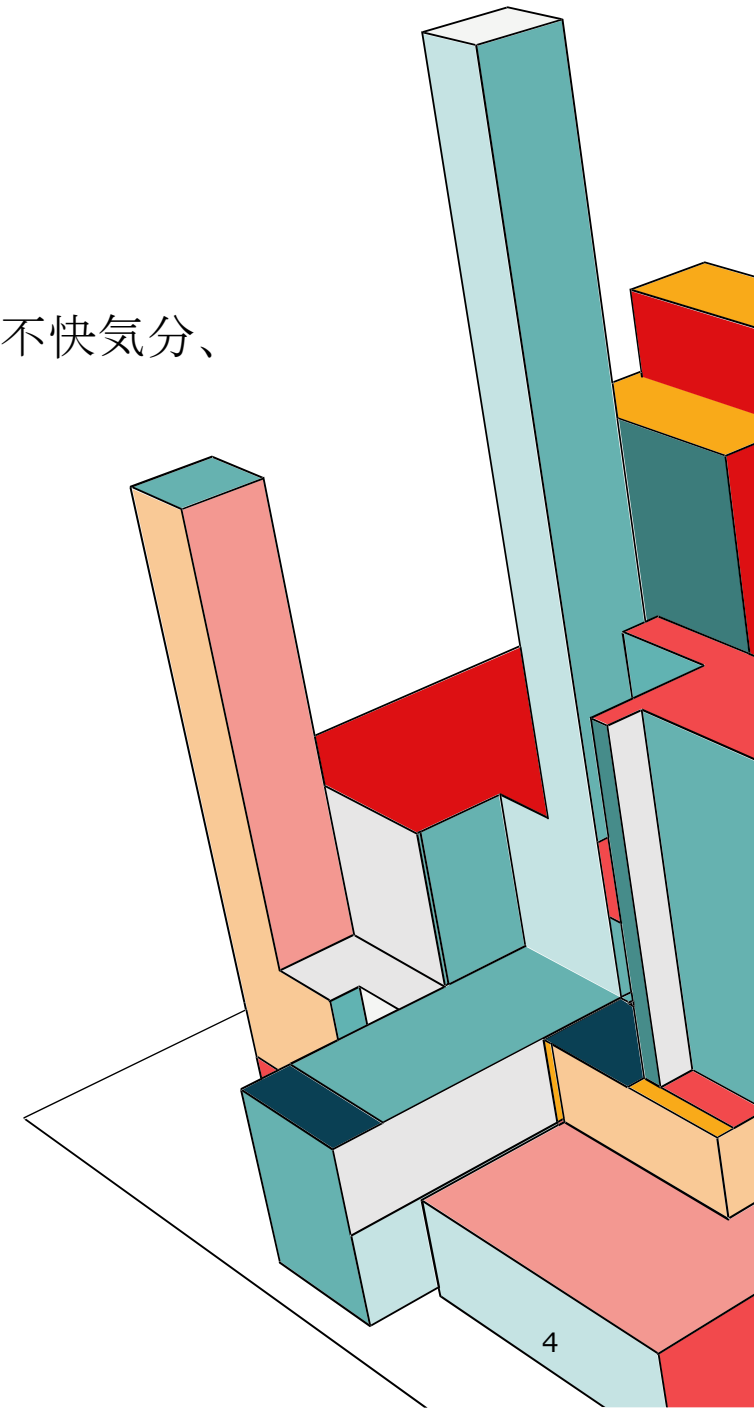
以下のうち5つ以上によって示される。

- ①現実に、または想像の中で見捨てられることを避けようとするなりふりかまわない努力
- ②理想化とこき下ろしとの両極端をゆれ動くことによって特徴づけられる、不安定で激しい対人関係様式
- ③同一性の混乱：著明で持続的で不安定な自己像または自己感
- ④自己を傷つける可能性のある衝動性で、少なくとも2つの領域わたるもの（例：浪費、性行為、物質乱用、無謀な運転、むちゃ食い）



診断基準 (DSM-5-TR) (続き)

- ⑤自殺の行動、そぶり、脅し、または自傷行為の繰り返し
- ⑥顕著な気分反応性による感情不安定性 (例：短期間しか持続しない強い不快気分、いらだたしさ、または不安)
- ⑦慢性的な空虚感
- ⑧不適切で激しい怒り、または怒りの制御の困難
- ⑨一過性のストレス関連性の妄想様観念または重篤な解離性症状



関わりのヒント

まずはボーダーラインパーソナリティ症を治療可能な「状態」とみること。

- ・ 変わらないペースで、変わらない距離を保ちながら、関心を注ぎ続ける
- ・ 本人の責任で決断し、行動させる（期待や価値観の押しつけをやめる）
- ・ 限度を超えた行動に対してはストップをかけ、必要な処置をとる
- ・ 一定の枠組みと目的を示す（できることとできないことを明確にする）
- ・ 何らかの方法、形態で家族との「折り合い」を図る。
- ・ 一度は感情を「もっともである」と受け止めて、そこからどうしたら良いか一緒に考える。

*ボーダーラインパーソナリティ症の治療に特化した弁証法的行動療法Dialectical Behavior Therapy, DBT（アメリカの心理学者 マーシャ・リネハンが開発）がエビデンスの確認されている精神療法として有名。）

